

# 令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
病気の成り立ち2							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名	実務経験			
柔道整復学科・夜間部	2年	2期	高田 雄三				
分野区分	教育課程		講義形式	単位	コマ数		
専門分野	科学的思考の基盤人間と生活		座学	1	10		
科目概要							
<p>病理学は疾病に対する知識の礎になるものである。本授業では、病気を正しく理解し疾病の概念を把握することを目的とする。解剖学や生理学などで学んだ基礎的な知識を基に、病気の原因を知り、発症にともなう人体にどのような変化が起きているのかを理解する。また、難解な医学用語を正しく理解し、疾病の発症と進展の機序を学ぶ。</p>							
目標							
<p><b>一般目標(GIO)</b> 本講義を学習することで達成されるべき目標</p>	<p>病理学は疾病の成り立ちを明らかにする学問であり、疾患を理解するために不可欠である。この講義では、主に病理学の総論としての炎症、免疫異常、腫瘍、先天性疾患、病因について学び、病気に関する基礎的な知識を身につけ、基礎医学と臨床医学の架け橋とする。</p>						
<p><b>到達目標(SBO)</b> 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な病理学・医学用語を理解し正しく使える。</li> <li>2. 疾患の基本的病態を系統的に説明できる。</li> <li>3. 病態の発生機序と関連因子について簡潔に説明できる。</li> <li>4. 臨床系統講義で講義される疾患の病態を概説できる。</li> </ol>						
履修に必要な予備知識や技能							
<p>柔道整復を学ぶ上で、その医学的基礎を理解する必要があります。それには、生物学的な知識についての理解も必要です。患者さんの立場に考えて説明、同意、指導を行うことを理解するためには相手を敬い、思いやる気持ちやリスク管理が大事で、広い視野をもつ必要があります。また、集団の中での状況を把握し、他者の意見を真剣に聴く力を養う必要があります。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書:「病理学概論」改訂第3版 社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版                  参考書:「新病理学」桜井勇 日本医事新報社                  「カラーで学べる病理学」渡辺照男 ヌーヴェルヒロカフ                  「系統看護学講座 病理学」大橋健一他 医学書院など</p>							
受講上の注意							
<p>毎回、授業中に国家試験過去問題を解きながら授業の確認を行いますので、予習(テキストを読む)をしっかりとやってください。不明な点は、授業内でも授業外でも構わないので適宜担当教員に確認してください。授業で必要なものは、必ず授業前に準備をしておいてください。</p>							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
	定期試験では、授業中に行うカッコの穴埋め問題および国家試験問題の中から出題する。						
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	炎症(炎症の一般)			p.61-65	配布プリント		
第2回	炎症(炎症の分類)			p.66-70	配布プリント		
第3回	免疫異常(免疫の仕組み、免疫不全)			p.71-77	配布プリント		
第4回	免疫異常(自己免疫疾患、アレルギー)			p.77-84	配布プリント		
第5回	腫瘍(腫瘍の概念)			p.85-99	配布プリント		
第6回	腫瘍(腫瘍の分類)			p.100-111	配布プリント		
第7回	先天性異常			p.113-126	配布プリント		
第8回	病因(内因、外因)			p.127-137	配布プリント		
第9回	病因(外因)			p.137-150	配布プリント		
第10回	テスト						
実務経験と本講義との関連について							
メールアドレス							
takada-t@nihonisen.ac.jp							